

東海大学付属図書館第49回展示会

源氏物語展

- 語り継がれた1000年 -



「源氏香の図 花の宴」より

2008年11月1日(土)～11月29日(土)

東海大学付属図書館

湘南校舎 11号館図書館展示室

～ 最近の展示 ～

- 2003年 5月 TABI 大名行列から大航海時代 - 日本と世界・旅の姿 -
11月 劇作家 北條秀司
- 2004年 5月 むかしのくらし
11月 北條秀司の舞台
- 2005年 4月 歴史書は語る - ビザンツ帝国一千年の歴史と歴史書 -
6月 北欧の近代文学
11月 彩色本となった日本の古典文学 - 東海大学附属図書館蔵書展 -
- 2006年 6月 江戸の出版物と装丁あれこれ
11月 桃園文庫展 - 平安朝の物語を中心に -
- 2007年 6月 レオナルド・ダ・ヴィンチの手稿を見る - 古代の知と技をめぐって -
11月 書画展 北條秀司をめぐる人びと
- 2008年 6月 附属図書館所蔵古地図展

展示にあたって

東海大学附属図書館には「桃園文庫」が収蔵されております。これには故池田亀鑑博士が研究の過程において収集された、平安朝文学を中心とする中世、近世の写本・刊本など約三千点を所蔵しております。特に「校異源氏物語」「源氏物語大成」の完成のため収集された、源氏物語関係の本文、系図、注釈、影響書など千部に近い大量の文献は「源氏物語の宝庫」とも言えるのではないのでしょうか。

さて今年は、紫式部によって「源氏物語」が書かれて千年目に当たる年とされております。この千年の間に「源氏物語」は、日本の文学、絵画や工芸など多くの分野に影響を与えて来ました。

今回は「桃園文庫」の中から、源氏物語関係の資料を展示します。それぞれの時代の解釈や「源氏物語」が与えた影響など、展示資料から垣間見ていただければ幸いです。

東海大学附属図書館



…源氏物語が書かれた頃からの主なできごと…

和 暦	西 暦	記 事	パンフレット番号
長保元年	999	正月頃、紫式部は藤原宣孝と結婚。宣孝四十歳代、式部二十歳代。	
長保2年	1000	紫式部の女賢子（越後弁、大式三位）誕生。	
長保3年	1001	藤原宣孝没す。「源氏物語」はこの後四・五年の間に大部分成ったか。	
寛弘3年	1006	紫式部、一条天皇の中宮彰子に仕う。（あるいは前年か）	
寛弘5年	1008	「紫式部日記」の記事始まる。十月一日、御五十日の儀の日『左衛門督（公任）、あなかしこ、このわたりに若紫やさぶらふとうかぢひ給ふ、源氏にかゝるべき人も見え給わぬに、かのうへはまいていかでものし給はむと聞きあたり』（紫式部日記）このような記事があり、この時すでに「源氏物語」は書かれ評判になっていたらしい。この記事をもって「源氏物語」が1000年前に書かれたとされている。	
寛弘7年	1010	敦良親王（後朱雀天皇）の御五十の儀あり。「紫式部日記」の記事終わる。四月以降に「紫式部日記」成る。	
寛仁元年	1017	藤原道長、太政大臣に、頼道、摂政に任ぜられる。藤原氏の盛隆極まる。	
寛仁4年頃	1020	上総守菅原孝標の女（更級日記の作者）は、上総国にあつて、姉、継母などが光源氏の様子などを所々語るのを聞いて、すべてが知りたいと思ったが、誰も源氏物語を一貫して話してくれないと歎いた。源氏物語はすでに広く読まれていた。	
長元5年頃	1032	「栄花物語」正篇成る。〔浦々の別れ〕に『色あひまことに白くめでたし、かの光源氏もかくやありけむと見奉る』とあり。	
天喜元年頃	1053	「狭衣物語」成る。『かの光源氏の、須磨の浦にしほたれわび給ひけむすまひさへぞ、うらやましくおぼされける』とあり。	
承暦元年頃	1077	「源氏物語系図」はこの頃すでにできていた。（池田亀鑑）	1・2
康和元年頃	1099	「栄花物語」続篇成る。『いかでかはさのみ思ふさまにおはしまさむ、光源氏かくれ給ひて、なごりもかくやとぞ』とあり。	
永久3年頃	1115	尾州家に三巻、益田家に一卷ある「源氏物語絵巻（所謂隆能源氏）」は鳥羽天皇の頃の作品で大和絵の代表作といわれる。	
大治元年	1126	藤原清衡の中尊寺金堂、三重塔の落成供養。	
保元元年	1156	保元の乱、天皇と院、平家と源氏の対立抗争により発生。	
平治元年	1159	平治の乱、平清盛、藤原信頼・源義朝を敗る。清盛、正三位に任ぜられこれ以降平氏一門の盛隆が始まる。	
永暦元年頃	1160	世尊寺伊行の「源氏物語釈」はこの頃成ったか。源氏物語注釈書の最初である。	11
嘉応2年頃	1170	この頃に成った「今鏡」に、『ありし人の、まことにや、昔の人紫式部の作り給へる源氏の物語に、さのみかたもなき事のなよび艶なるを』とあり。	
治承元年頃	1177	あぐゐの法印澄憲が導師となって、源氏供養を行った。「源氏一品経表白」はその時の願文で、源氏物語は虚言をもって好色のことを書いたもので、作者も読者も地獄に落ちるであろう、この作者読者の罪を救うために、法華経を写して菩提の縁としようというのである。	12
治承4年	1180	平清盛の要請による福原遷都。	
文治元年	1185	壇ノ浦の戦い、平氏滅亡。	
建久3年	1192	源頼朝、征夷大將軍に任ぜられ、鎌倉幕府を開く。	
建久4年	1193	俊成の「六百番歌合判詞」に、『紫式部、歌よみの程よりも、もの書く筆は殊勝なり、その上花宴は殊に艶なるもの也、源氏みざる歌詠は遺恨の異なり』とあり。	
建二元年頃	1201	藤原俊成、源光行、その子親行は源氏物語を会読して、句読、濁点、仮名に当てた漢字等の誤りを訂正した。	
承久3年	1221	承久の乱起こる。六波羅探題の設置。	
元仁2年	1225	二月十六日、藤原定家が昨年十一月から写させていた源氏物語の写本五十四帖が完成した。これが「青表紙」の原本である。	
嘉禎2年	1236	源親行は源氏物語の校合を始めた。この前後に、定家の「源氏物語奥入」成る。	13
建長7年	1255	河内守源親行の源氏物語の校合書写が19年ぶりで完成した。これが「河内本」の原本であるが、今残っているのは一帖もない。	

…源氏物語が書かれた頃からの主なできごと…

和 暦	西 暦	記 事	パンフレット番号
正嘉2年	1258	北条実時が親行の本を書写させたのが完成した。これが尾州家の「河内本源氏物語五十四帖」である。	
文永元年頃	1264	源親行の「原中最秘抄」二巻成る。	
文永3年	1266	源親行が作ったと考えられる「源氏物語系図」を正月七日に写した人があると「実隆公記」にある。	
文永6年	1269	飛鳥井雅有は、藤原為家、阿仏尼から源氏物語の講義を聞く。	
文永11年	1274	文永の役、第一回蒙古襲来。	
弦安3年	1280	東宮（後の伏見天皇）は源氏論議を行われた。雅有以下左右各四人が各二カ条の不審を提出して、論議の結果勝負を決めた。「弦安源氏論議」は寛文元年（1661）同八年に刊行された。	15
弘安4年	1281	弘安の役、第二回蒙古襲来。	
永仁2年	1294	親行の弟素寂は、その著「紫明抄」十巻を鎌倉将軍久明親王に奉った。	16
元亨元年	1321	後宇多法皇の院政を廃止し、後醍醐天皇の親政とする。	
正慶2年	1333	鎌倉幕府滅亡、護良親王を征夷大將軍に任じる。	
建武元年	1334	建武の中興、後醍醐天皇の親政。	
正慶3年	1336	足利尊氏「建武式目」を制定、室町幕府の成立。	
貞治2年頃	1363	四辻善成は、足利二代将軍義詮の命によって、「河海抄」二十巻を作って、従来の注釈を集大成した。	17
永和4年	1378	足利義満、室町弟（花の御所）に移る。北山文化の開花。	
弦和元年	1381	長慶天皇は、水原抄、紫明抄、原中最秘抄から主要な語句の解釈を抄出し、これに私見を加えて、いろはの順に並べて「仙源抄」を作られた。これが源氏物語辞典の最初である。	18
至徳3年	1386	四辻善成は源氏物語の講義を始め、嘉慶二年（1388）十一月まで三十数回行った。平井相如がこの講義を聞き、不審を正して、要語を簡単に注したのが「千鳥抄」である。	19
嘉慶2年頃	1388	四辻善成は河海抄に修正を加え、更に河海抄に注しなかった秘説を集めて、「珊瑚秘抄」一巻を作った。	20
明德3年	1392	南北朝合一、室町幕府の確立。	
応永4年	1397	金閣（北山弟）を建立。	
応永30年	1423	藤原長新（耕雲山人名魏）は、「源氏小鏡」三巻（各巻の梗概を書いたもの）を足利四代将軍義時に献じた。	21
永享4年	1432	今川範政の「源氏物語提要」六巻成る。教戒的意義を含めた梗概書。	22
永享10年	1438	永享の乱、飛鳥井雅世。最後の勅撰集「新統古今和歌集」の撰進。	
享徳2年	1453	一条兼良の「源氏物語年立」二巻成る。この物語の年立の最初である。	23
応仁元年	1467	応仁の乱起こる。	
文明4年	1472	一条兼良の「花鳥余情」三十巻成る。河海抄の誤りを正し、足らぬ所を補い、文意を正しく理解することに勤め、著しく鑑賞的になった。	24
文明6年	1474	応仁の乱終わる。これ以後下克上の世となり、群雄が割拠する。	
文明7年	1475	宗祇の「種玉篇次抄」成る。匂宮巻から椎本巻まで五帖の巻の順序に関する疑問を述べた。	25
文明9年	1477	一条兼良の「源氏秘訣」一巻成る。花鳥余情に注しなかった秘説を注した。	26
文明13年	1481	飛鳥井雅康は、大内政弘の所望で、青表紙系統の源氏物語五十四帖を書写した。これが源氏物語大成の底本となった。	
文明17年	1485	三条西実隆は、宗祇、肖柏から源氏物語の講義を聞いた。宗祇の「雨夜談抄一名帚木別註」一巻成る。	
長享2年	1488	実隆は宗祇、肖柏等の協力を得て「源氏物語系図」を完成した。	3・4
明応元年	1492	実隆は宗祇、肖柏以下6人と共に、源氏物語論議を催した。現在の討論会である。	

…源氏物語が書かれた頃からの主なできごと…

和 暦	西 暦	記 事	パンフレット番号
明応4年	1495	宗祇が「新撰菟玖波集」を撰集。	
明応5年	1496	宗祇の「源氏物語内不審抄出」成る。	27
永正14年	1517	宗碩の「源氏男女装束抄」成る。	28
大永8年	1528	「細流抄」成る。実隆の講義を土台として、その子公条が書き、実隆が校閲したものである。公条の子実枝が所々注を補い、概説一卷を加えたものが「明星抄」で明暦三年（1657）に刊行された。	29・30
享祿4年	1531	実隆がその子公条、西順と共に、新たに書写した「三条西家証本源氏物語」が完成、叡覽に供えた。この本は今も三条西家にある。	
天文12年	1543	種子島にポルトガル人が来航、鉄砲・火薬を伝える。	
天文18年	1549	フランシスコ・ド・ザビエルが鹿児島に上陸、キリスト教伝来。	
弘治元年	1555	織田信長、清洲城に入る。	
永祿3年	1560	室町幕府、ガスパル・ビレラにキリスト教布教を許可。	
永祿12年	1569	織田信長の前でルイス・フロイスと朝日山日乗との宗論、ルイス・フロイスの京都居住を許可。	
天正元年	1573	室町幕府滅亡。	
天正3年	1575	九条前関白植通の「孟津抄」二十一冊成る。三条西家の注釈を大成した。	31
天正4年	1576	織田信長、安土城入城。	
天正8年	1580	公条の弟里村紹巴の「源氏紹巴抄」二十巻成る。	32
天正10年	1582	天正遣欧使節の派遣、本能寺の変。	
天正18年	1590	豊臣秀吉、全国統一。徳川家康、江戸城入城。	
文祿元年	1592	文祿の役（第一回朝鮮出兵）。	
慶長元年	1596	実枝の弟子一華堂乗阿は、伏見城で徳川家康に源氏物語の講釈をした。	
慶長2年	1597	慶長の役（第二回朝鮮出兵）。	
慶長3年	1598	実枝の弟子細川幽斎とその弟子中院通勝とが編纂した「岷江入楚」五十五巻（従来の諸注釈書を集大成したもの）が10年ぶりに完成した。豊臣秀吉死亡。	33
慶長5年	1600	関が原の戦い。	
慶長8年	1603	徳川家康、征夷大將軍になり、江戸幕府を開く。	
慶長19年	1614	徳川家康は駿府で飛鳥井雅庸から源氏物語講釈を聞く。	
寛永元年	1624	中村勘三郎、江戸に猿蓑座を建てる。	
寛永12年	1635	参勤交代制度の確立。	
寛永13年	1636	日光東照宮社の大造営完成。	
寛永14年	1637	島原の乱起こる。	
寛永16年	1639	江戸城内に紅葉山文庫を設立。	
慶安3年	1650	山本春正の「絵入本源氏物語」六十巻刊行。	10
明暦2年	1656	「十二源氏袖鏡」十二巻刊行、万治二年には絵入二冊本として刊行、梗概書。	34
明暦3年	1657	明暦の大火（別に振袖火事と称され、江戸城本丸・二の丸消失）。徳川光圀「大日本史」の編纂開始。	
万治3年	1660	小島宗賢、鈴木信房の「源氏鬢鏡」二巻刊行。	35
万治4年	1661	野々口立圃の「十帖源氏」十巻刊行。原文の要所を抜き、これに絵を入れて梗概の分かるようにした仮名草子である。	36
寛文10年	1670	野々口立圃の「おさな源氏」十巻刊行。平易に縮訳した仮名草子である。	58
寛文12年頃	1672	熊沢蕃山の「源氏外伝」五巻成る。儒者、為政者の立場からの論が多い。	37
延宝元年	1673	貞徳の弟子北村季吟の「湖月抄」六十巻が成り、同三年刊行。河海、花鳥、弄花、細流、孟津の諸抄を主とし、自説を加え簡明適切に注釈した。江戸市中に出版取締り令を発令。	38

…源氏物語が書かれた頃からの主なできごと…

和暦	西暦	記事	パンフレット番号
延宝6年	1678	初代坂田藤十郎、江戸で歌舞伎「和事」を演じる。	
天和2年	1682	井原西鶴の「好色一代男」「好色二代男」（貞享元年刊）共に源氏物語の影響を受けたものである。	
貞享4年	1687	生類憐み令を発令。	
元禄元年	1688	元禄文化（～1707）。	
元禄7年	1694	松尾芭蕉、「奥の細道」の完成。	
元禄15年	1702	赤穂浪士の吉良邸討入り。	
元禄16年	1703	都の錦の「風流源氏」六冊刊行。桐壺、帚木の浮世草子風の訳本である。	59
宝永4年	1707	梅翁の「若草源氏」六冊刊行、帚木、夕顔の俗解である。同五年「雛鶴源氏」六冊刊行、若紫、未摘花の俗解。同六年「紅白源氏」六冊刊行、紅葉賀、花宴の俗解である。富士山、宝永の大噴火により宝永山ができる。	60・61・64
享保元年	1716	徳川吉宗八代将軍将軍となる。享保の改革の開始。	
享保7年	1722	江戸町奉行大岡忠相、地方御用掛を兼務。小石川薬園に施薬院小石川養生所を設置。	
延享2年	1745	享保の改革終わる。徳川吉宗、職を徳川家重に譲る。	
宝暦8年	1758	賀茂真淵の「源氏物語新釈」五十四巻成る。側衆田沼意次、評定所出座を許可される。	39
宝暦13年	1763	本居宣長の「手まくら」成る。六条御息所の初めのことが物語にないので、物語の文をまねて創作したもので、寛政四年春に刊行。	40
明和5年	1768	上田秋成「雨月物語」を完成。	
天明7年	1787	寛政の改革開始。	
天明8年	1788	老中松平定信、将軍補佐となる。	
寛政8年	1796	本居宣長の「玉の小櫛」九巻成る。評論としては近世の白眉である。年立を論じ、始めて「年立図」を作った。	41
寛政9年	1797	尾崎雅嘉の「掌中源氏物語」成る。初めに梗概があって、人物一覧、故事一覧がいずれもいろは順に集めてある。	42
寛政12年	1800	昌平坂学問所が竣工。	
文化元年	1804	化政文化（～1830）。	
文化4年	1807	橋本稲彦の「紫文消息製錦」一卷刊行。擬古文や擬古文の手紙を書く手本として抄出したものである。	43
文政4年	1821	伊能忠敬「大日本沿海実測地図」を完成、江戸幕府に献上。	
文政8年	1825	江戸幕府、異国船打払令を指令。	
文政12年	1829	柳亭種彦が源氏物語を翻案した「修紫田舎源氏」初編四冊刊行、杉田玄白「蘭学事始」を完成。	62
文政13年	1830	石川雅望は「源注余滴」を未完成のまま没した。湖月抄に載せられた注の誤りを正し、源注拾遺、新釈、玉の小櫛などの注を引くことが多い。	44
天保10年	1839	黒沢翁満著、椿斎清福画「源氏百人一首」成る。源氏物語中の123人の肖像とその歌をかき、上欄にその人と歌を説明した。蛮社の獄（高野長英、渡辺崋山を投獄）。	45
天保12年	1841	天保の改革の開始（～1843）。水野忠邦、老中となる。	
天保13年	1842	天保の改革によって「田舎源氏」の刊行が禁じられ、真木柱に当たる第三十九篇は刊行されなかった。	
嘉永6年	1853	アメリカ東インド艦隊司令長官ペリー、国使として浦賀に来航。	
安政元年	1854	日米和親条約を締結し、下田・箱館の2港を開港。	
万延元年	1860	桜田門外の変（大老井伊直弼、水戸・薩摩の浪士に殺害）、安政の大獄終わる。	
文久3年	1863	新撰組、京都守護職に属す。	
慶応3年	1867	十五代征夷大将軍徳川慶喜、大政奉還。	
明治5年	1872	近藤芳樹の「源語奥旨」成る。	46

1. 源氏物語系図 げんじものがたりけいず

鎌倉初期(1200年代)写 1軸 29×682cm
卷子本、紙表紙、写本、「九條」印あり

2. 源氏物語系図 げんじものがたりけいず

伝越部禅尼筆
鎌倉初期(1200年代)写 1軸 30×725cm
卷子本、布表紙、写本

3. 源氏物語系図 / 三条西実隆著 げんじものがたりけいず

江戸初期(1600年代)写 1帖 18×19cm
折本、紙表紙、写本

4. 源氏系図 / 三条西実隆著 げんじけいず

江戸初期(1600年代)写 1冊 27cm
袋綴、紙表紙、写本

5. 源氏香の図 / 歌川豊国(二世)画 げんじこうのず

江戸後期(1800年代)刊 1帖 36×35cm
折本、布表紙、刊本

6. 木版画源氏五十四帖 / 海老名正夫原画 もくはながげんじごじゅうよんじょう

[東京]: [内外タイムス]
昭和初期(1930年代)頃刊 30枚 26×35cm
版画

7. [源氏物語絵] / 梶田半古絵 げんじものがたりえ

明治38年(1906)頃製作 2帖 18cm
絵葉書

8. 光源氏物語 / 紫式部著 ひかるげんじものがたり

江戸初期(1600年代)写 54巻54冊 18cm
胡蝶装、紙表紙、写本、「阿波国文庫」印あり

9. 源氏物語 宿木巻 / 紫式部著 げんじものがたり やどりきのまき

伝二条為氏筆
鎌倉後期(1300年代)写 1冊 24cm
胡蝶装、布表紙、写本

10. 源氏物語 / 紫式部著 げんじものがたり

慶安3年(1650)刊 60巻60冊 27cm
袋綴、紙表紙、刊本、絵入本

11. 源氏釈 / 世尊寺伊行著 げんじしゃく

昭和3年(1928)写 1冊 28cm
袋綴、紙表紙、写本

12. 源氏物語表白 / 安居院聖覚著 げんじものがたりひょうびやく

岸廼舎写
昭和4年(1929)写 1冊 27cm
袋綴、紙表紙、写本

13. 源氏物語奥入 / 藤原定家著 げんじものがたりおくいり

江戸初期(1600年代)写 1冊 29cm
袋綴、紙表紙、写本

14. 原中最秘抄 / 源親行原著 げんちゅうさいひしょう

江戸中期(1700年代)写 2巻1冊 26cm
袋綴、紙表紙、写本

15. 弘安源氏論議 / 源具顕著 こうあんげんじろんぎ

江戸初期(1600年代)写 1冊 28cm
袋綴、紙表紙、写本

16. 紫明抄 / 素寂著 しめいしょう

池田亀鑑写 1軸 28×260cm
書写年不明
卷子本、布表紙、写本

17. 河海抄 / 四辻善成著 かかいしょう

江戸初期(1600年代)写 20巻10冊 27cm
袋綴、紙表紙、写本、「阿波国文庫」印あり

18. 仙源抄 / 長慶天著作 せんげんしょう

吉田兼右書 1冊 27cm
永禄9年(1566)写
袋綴、紙表紙、写本

19. 千鳥抄 / 平井相助著 ちどりしょう

室町後期(1500年代)写 1冊 26cm
袋綴、紙表紙、写本

20. 珊瑚秘抄 / 四辻善成著 さんごひしょう

池田宏文写 1冊 14cm
昭和7年(1932)写
袋綴、紙表紙、写本

21. 源氏小鏡 げんじこかがみ

永禄8年(1565)写 2巻1冊 23cm
胡蝶装、布表紙、写本

22. 源氏物語提要 / 今川範政著 げんじものがたりていよう

江戸中期(1700年代)填写 6巻6冊 27cm
袋綴、紙表紙、写本

23. 源氏物語諸巻年立 / 一条兼良著 げんじものがたりしよかんとしだて

弘治3年(1557)写 1冊 24cm
袋綴、紙表紙、写本

24. 花鳥餘情 / 一条兼良著 かちょうよじょう

江戸初期(1600年代)写 28巻9冊 29cm
袋綴、紙表紙、写本

25. **[種玉篇次抄] / 宗祇著 しゅぎよくへんじしょう**

江戸初期(1600年代)写 1冊 28cm
袋綴、紙表紙、写本

26. **源語秘訣 / 一条兼良著 げんごひけつ**

天正10年(1582)写 1冊 26cm
胡蝶装、紙表紙、写本

27. **源氏物語不審抄出 / 宗祇著 げんじものがたりふしんしょうしゅつ**

江戸初期(1600年代)写 1冊 27cm
袋綴、紙表紙、写本

28. **源氏男女装束抄 / 月村斎宗碩著 げんじだんじょしょうぞくしょう**

江戸中期(1700年代)写 2巻1冊 23cm
袋綴、紙表紙、写本

29. **細流抄 / 三条西公条著 さいりゅうしょう**

江戸中期(1700年代)填写 1冊 28cm
袋綴、紙表紙、写本、「九條」印あり

30. **明星抄 / 三条西実枝著 みょうじょうしょう**

江戸中期(1700年代)刊 20巻20冊 27cm
袋綴、紙表紙、刊本

31. **孟津抄 / 九条植通著 もうしんしょう**

室町後期(1500年代)写 1冊 27cm
袋綴、紙表紙、写本

32. **源氏紹巴抄 / 里村紹巴著 げんじじょうはしょう**

江戸中期(1700年代)頃刊 20巻20冊 28cm
袋綴、紙表紙、刊本

33. **岷江入楚 / 中院通勝著 みんごうにっそ**

江戸中期(1700年代)頃写 30巻29冊 25cm
袋綴、紙表紙、写本

34. **十二源氏袖鏡 じゅうにげんじそでかがみ**

刊記：書林堂
万治2年(1659)刊 12巻12冊 27cm
袋綴、紙表紙、刊本、絵入本

35. **源氏鬘鏡 / 小島宗賢，鈴村信房共編 げんじびんかがみ**

万治3年(1660)刊 1冊 25cm
袋綴、紙表紙、刊本、絵入本

36. **十帖源氏 / 野々口立圃著 じゅうじょうげんじ**

万治4年(1661)刊 10巻10冊 27cm
袋綴、紙表紙、刊本、絵入本

37. 源氏外伝 / 熊沢蕃山著 げんじがいでん

江戸後期(1800年代)写 2巻2冊 27cm
袋綴、紙表紙、写本

38. 湖月抄 / 北村季吟著 こげつしょう

刊記：村上勘左衛門ほか
江戸後期(1800年代)刊 60巻60冊 27cm
袋綴、紙表紙、刊本

39. 源氏物語新釈 / 賀茂真淵著 げんじものがたりしんしゃく

江戸後期(1800年代)写 56巻53冊 28cm
袋綴、紙表紙、写本

40. 手枕 / 本居宣長著 たまくら

刊記：片野東四郎
寛政4年(1792)刊 1冊 27cm
袋綴、紙表紙、刊本

41. 源氏物語玉の小櫛 / 本居宣長著 げんじものがたりたまのおぐし

刊記：須原茂兵衛ほか
寛政7年(1795)頃刊 9巻9冊 27cm
袋綴、紙表紙、刊本

42. 掌中源氏物語 / 尾崎雅嘉編 しょうちゅうげんじものがたり

刊記：額田正二郎ほか
天保8年(1837)刊 1冊 7×15cm
袋綴、紙表紙、刊本

43. 紫文製錦 / 橋本稻彦著 しぶんせいきん

文化4年(1807)刊 8巻8冊 18cm
袋綴、紙表紙、刊本

44. 源註余滴 / 石川雅望著 げんちゅうよてき

江戸後期(1800年代)頃写 19冊 27cm
袋綴、紙表紙、写本

45. 源氏百人一首 / 黒沢翁満著 げんじひやくにんいっしゅ

刊記：岡田屋嘉七ほか
天保12年(1841)刊 1冊 26cm
袋綴、紙表紙、刊本、絵入本

46. 源氏奥旨 / 近藤芳樹著 げんじおうし

明治8年(1875)頃写 1冊 18cm
袋綴、紙表紙、写本

47. 源氏物語絵図 / 香蝶楼国貞画 げんじものがたりえず

香蝶楼(歌川)国貞画
江戸後期(1800年代)刊 3枚 35×26cm
版画

48. 源氏十二月絵巻 げんじじゅうにかげつえまき

江戸後期(1800年代)頃画 1軸 35×350cm
卷子本、布表紙、写本

49. [源氏物語絵] / 土佐光信古図 ; 一登斎芳綱縮図 げんじものがたりえ

江戸後期(1800年代)刊 1帖 19×9cm
折本、紙表紙、刊本

50. [源氏物語でんじゆ書] げんじものがたりでんじゆしょ

江戸後期(1800年代)刊 36枚 4×2cm

51. 盛光源氏五十四帖図絵 / 宮田要治著 もりばなげんじごじゅうよんじょうずえ

刊記：宮田要治
大正7年(1918)刊 1冊 26cm
袋綴、紙表紙、刊本

52. 光源氏双六 ひかるげんじすごろく

江戸後期(1800年代)刊 1枚 74×53cm

53. 投扇興点付 / 富川周重筆 とうせんきょうてんつき

刊記：鈴木伝次郎
明治初期頃刊 1枚 19×11cm

54. 源氏物語かるた げんじものがたりかるた

江戸後期(1800年代)頃製作 220枚 9×6cm

55. 源氏かるた げんじかるた

江戸後期(1800年代)頃製作 110枚 7×5cm

56. 源氏かるた絵合 / 洗心斎綾岡画 げんじかるたえあわせ

江戸後期(1800年代)刊 1枚 40×55cm

57. 江戸紫源氏栄 / 芳樹店散人画 えどむらさきげんじさかえ

江戸後期(1800年代)頃刊 1枚 48×69cm

58. おさなげんじ / 野々口立圃著 おさなげんじ

刊記：山本義兵衛
寛文10年(1670)刊 10巻10冊 27cm
袋綴、紙表紙、刊本、絵入本

59. 風流源氏ものがたり / 都の錦著 ふうりゅうげんじものがたり

刊記：河勝五郎右衛門ほか
元禄16年(1703)頃刊 6巻6冊 28cm
袋綴、紙表紙、刊本、絵入本

60. わか草源氏物語 / 梅翁著 ; 奥村政信画 わかくさげんじものがたり

刊記：須藤権兵衛
宝永4年(1707)刊 5巻5冊 28cm
袋綴、紙表紙、刊本、絵入本

61. ひな鶴源氏物語 / 梅翁著 ; 奥村政信画 ひなづるげんじものがたり

享保6年(1721)頃刊 3巻3冊 23cm
袋綴、紙表紙、刊本、絵入本

62. 修紫田舎源氏 / 柳亭種彦著 にせむらさきいなかげんじ

文政12年(1829)頃写 12冊 27cm
袋綴、紙表紙、写本

63. 修紫田舎源氏 / 柳亭種彦著 ; 歌川国貞画 にせむらさきいなかげんじ

文政12年(1829)頃刊 19冊 18cm
袋綴、紙表紙、刊本、絵入本

64. 新板こう白源氏物語 / 梅翁著 ; 奥村政信画 しんばんこうはくげんじものがたり

刊記 : 山口屋権兵衛
宝永6年(1709)刊 5巻1冊 23cm
袋綴、紙表紙、刊本、絵入本

65. 室町源氏胡蝶巻 / 柳亭種彦(二世)作 ; 歌川国貞(二世)画 むろまちげんじこちょうのまき

文久4年(1864)頃刊 21編42冊 18cm
袋綴、紙表紙、刊本、絵入本

66. [源氏五十三次] げんじごじゅうさんつぎ

江戸後期(1800年代)頃刊 1冊 25cm
袋綴、紙表紙、刊本

67. 絵本袖中雛源氏 えほんしゅうちゅうひいなげんじ

刊記 : 丁子屋源治郎
江戸後期(1800年代)頃刊 1冊 12cm
袋綴、紙表紙、刊本、彩色絵入本

68. 新訳源氏物語 / 与謝野晶子著 しんやくげんじものがたり

東京 : 大鐘閣
1926年 2冊 23cm

69. 源氏物語 / 谷崎潤一郎訳 げんじものがたり

東京 : 中央公論社
1987年 1冊 23cm

70. 源氏物語 / 円地文子著 げんじものがたり

東京 : 学習研究社
1979年 1冊 30cm

71. 新源氏物語 / 田辺聖子著 しんげんじものがたり

東京 : 集英社
2004年 2冊 22cm

72. 源氏物語 / 瀬戸内寂聴訳 げんじものがたり

東京 : 講談社
1996-1998年 10冊 23cm

73. 源氏物語：放送劇 / 北條秀司著 げんじものがたり：ほうそうげき

東京：宝文館
1957年 1冊 19cm

74. 北條秀司作「浮舟」初演時のパンフレット(七月興行大歌舞伎)

東京：明治座
1957年 1冊 26cm

75. 北條秀司作「落葉の宮」の絵看板

東京：歌舞伎座
1959年 1枚 132×66cm

76. 源氏物語大成 / 池田亀鑑編著 げんじものがたりたいせい

東京：中央公論社
1971年 8冊 27cm

77. 源氏物語(宿木巻)・源氏物語系図 / 東海大学桃園文庫影印刊行委員会編 げんじものがたり(やどりぎのまき)・げんじものがたりけいず

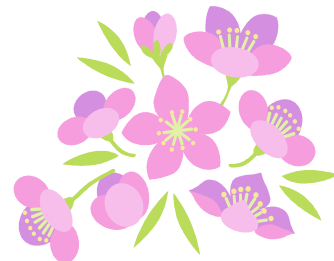
東京：東海大学出版会
1991年 1冊 31cm

78. 東山御文庫蔵源氏物語 / [紫式部著] ひがしやまごぶんこそうげんじものがたり

[東京]：日本古典文学会
[19--]年 55冊 16cm

79. オーディオ・ドラマ源氏物語 / [紫式部原著]；瀬戸内寂聴訳

[東京]：タイトル・プロデュース
c2000 録音ディスク 115枚



参考文献：「源氏物語事典」池田亀鑑編 東京堂，1960
「桃園文庫和装本目録」東海大学附属図書館編 東海大学附属図書館，1979
「日本史年表」歴史学研究会編 岩波書店，1995

発行日 2008年11月1日
印刷 事務部 印刷業務課
発行所 東海大学附属図書館
〒259-1292 平塚市北金目 1117
TEL 0463-58-1211 (代)

